

書ける漢字を作文でなぜ使はない

私が指導主事を務めてみた時、小学校の先生方から相談されたことが多かった事の第一に、「学習した漢字が、テストでは書けるようになってるのに、作文にはそれをかな書きするのです。なぜでせうか」といふ問題がありました。

これに対しては、「テストで書けたと言っても、十分に習熟してゐない為に作文に使ふことが出来ないのでは無いか」といふ考へ方と、「漢字は画数が多くて書くのが面倒なので、書き易いかなを使ふのでは無いか」といふ考へがありました。が、事実はどちらも間違つてゐました。

一年生の最初から漢字表記で学習した子供たちは、どんな言葉でも必ず漢字で書かうとしました。例へば、書けない漢字があると、先生に尋ねて教へて貰ふか、自分で調べるかして必ず漢字で書き、決してかなで書くことをしませんでした。だから、「学習した漢字が作文に使はれない」といふ先生方の悩みなど誇張だったのでは無いか、と思ふやうになりました。

所が、それから3年後、昭和31年に担任した一年生に対しては、文部省の指導要領に従つて指導することにし、かな表記の言葉はかな表記のままに学習させました。すると、かういふ学習過程の中で漢字学習をした子供たちは、確かにテストすれば書ける漢字を、作文には使は

ないでかな書きすることが解りました。

それで、「学習した漢字は必ず使って書かなければいけない」と言つて注意したのですが、いくら注意しても一向に改まりませんでした。この体験を通して、「学習した漢字が作文には使はれないので困る」といふ先生方の悩みが、決して誇張では無かつたことを知ることが出来ました。